

誰かのために
動きたい。
明日の自分を
伸ばしたい。

②地域安全パトロール
地域とのふれあいや犯罪抑止に
つながればと、地域の皆さんや子
どもたちに声掛けをしています。大
学生によるパトロールは全国的
にも珍しいのだとか。



①クリーンアップ大作戦
ボランティア協議会発足のきっかけ
になった活動。多いときは100人を
超える学生が参加して、大学周辺
の清掃活動を行っています。



2004年

10年を
迎えました

7月
名城大学ボランティア協議会発足
「クリーンアップ大作戦」発足 ①
10月
「地域安全パトロール」発足 ②
「災害復興ボランティア」発足

ボランティア協議会

現地で復興支援
名城大生が
再び新潟に

13日から3泊5日
「復興支援」

2005年5月10日 中日新聞掲載

大学生防犯に「役」
名城大ボランティア協
地域パトロールを開始

2004年12月17日 中日新聞掲載

2004年に発足された名城大学
ボランティア協議会。きっかけは、その2
年前、一人の学生が学内でたばこの吸殻
を拾い出したのが始まりでした。その
行動に賛同する学生や教職員が増えて
いき、ついにサークル活動から協議会へ
と発展。学生が企画・運営の中心となっ
て、時代のニーズに応えるために、あるい
は「誰かのために動きたい。明日の自分
を伸ばしたい」と向上心を持って、さま
ざまな活動に取り組んできました。

一人の学生の行動が
みんなを動かす
きっかけに。



お話しいただいたのは・写真左から
会長
農学部 生物環境科学科 3年
濱口 静加さん
事務担当副会長
経済学部 産業社会学科 3年
山本 創平さん
実務担当副会長
経済学部 産業社会学科 3年
水野 航希さん

ボランティア協議会って、自分を成長
させてくれる場だと思う。
もっとできることはないかって、向上心
を高めてくれるんです。



③盲導犬ボランティア
社会に盲導犬が普及しないことに、問題意識を持った学生たちが始めた活動。視覚障がい者のサポートや、盲導犬の普及活動をお手伝いしています。

④あしたの丘ボランティア
福祉施設のご利用者のレクリエーション活動と一緒に楽しみながらお手伝いしています。

⑤「椿まつり」プロジェクト
「よみがえれ大島」という大学の東日本大震災復興支援プロジェクトに関連し、気仙沼大島の復興を観光面から応援。

2014年	2013年	2012年	2011年	2010年	2009年	2008年	2007年	2006年
<p>9月 発足10周年記念式典(開催予定)</p>	<p>10月 東日本大震災追悼キャンドルナイト実施</p> <p>5月 NAGOYA学生EXPO参加</p>	<p>3月 学生主催「椿まつり」プロジェクト開始⑤</p> <p>6月 大学主催「よみがえれ大島」開始</p>	<p>4月 東日本大震災に対する募金活動実施</p> <p>4月・7月 タオルプロジェクト「3万枚の奇跡」を実施</p>	<p>1月 名古屋市と「なごや防犯ボランティア団体協定」締結</p> <p>4月 「あしたの丘ボランティア」発足④</p>	<p>3月 同窓会発足</p> <p>6月 エコキャップ回収ボックスの学内設置</p>	<p>8月 「ふれあいあいさつ運動」開始</p> <p>9月 顧問を設置</p>	<p>4月 「クリーンアップ大作戦」から「環境ボランティア」と改称 Vポイント制度導入</p> <p>「エコキャップ大作戦」開始</p> <p>「省エネ・環境パトロール活動」を開始</p> <p>「盲導犬ボランティア」発足③</p>	<p>9月 事務部門(総務・広報・財務)を設置</p> <p>「天白学生地域防犯パトロール隊」結成</p>



2011年6月9日 読売新聞掲載



2006年1月8日 朝日新聞掲載



2005年11月17日 読売新聞掲載



現在は、環境ボランティア、地域安全パトロール、災害復興ボランティアなど9つの部門からなる組織に成長。今年、発足10周年を迎えることになりました。

自分自身が成長でき、大学のことも誇りに思える。

「身近な清掃活動から災害復興まで幅広く、自分の関心のある活動に空き時間に参加できる」と、ボランティア協議会の魅力を語るのは濱口さん。「やりたいことがあれば、自分たちでやればいいんです」と山本さんが語るように、自主性を重んじるのも協議会の伝統です。活動を続ける中で、自分の成長を実感したと語る学生も大勢います。

「自分で計画し自分で発信し、目的をもつて活動する。それができるようになる場所」と水野さん。社会の一員として地域社会に貢献するとともにボランティア活動を通して学生自身の成長に寄与することが協議会の大きな目的でもあるのです。

今後の活動について、「新しいことを始めるより、継続することの方がもっと大変。だからこそ一つひとつの活動を磨きあげたい」「学生だから、やれることは限られているかもしれないが、その中の最大限を目指したい」と決意を表明。また、「名城大学だからこそ成長できた。この大学を誇りに思う」と、3人は声を揃えます。その情熱は、今後とも後輩たちへ引き継がれていきます。